

## 外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/06/20

### 欧州と米国に挟まれる一週間

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↓	上値の重さが気になる 予想レンジ: 82.10 ~ 86.20 円	2 - 3
<u>NZドル/円</u>	↓	NZ経常収支は37年ぶり黒字となるか 予想レンジ: 63.10 ~ 66.50 円	4 - 5
<u>ランド/円</u>	↓	南ア5月CPIに注目 予想レンジ: 11.50 ~ 12.00 円	6 - 7
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# AUD / JPY

## 豪ドル/円 6/13~17の主な推移



<b>6/13</b> Monday	格付け会社S&Pによるギリシャの格下げを背景に、NYダウ平均が下落し、原油先物価格も2ドル近く急落。これを受け、豪ドル/円は一時84.48円まで下落した(①)。
<b>6/14</b> Tuesday	米5月の小売売上高や生産者物価指数が予想を上回る結果となり、市場では米景気の停滞観測が和らぎ、時間外のNYダウ平均先物が上昇。豪ドル/円はこれに連れて上昇した(②)。
<b>6/15</b> Wednesday	スティーブンス豪準備銀行(RBA) 総裁は講演で、「ある時点で利上げが必要」「(7月に発表される)消費者物価指数は政策決定にとって重要」「インフレ率は上ブレの可能性が高い」などと発言。これを受け市場では早期利上げ観測が浮上し、豪ドル/円は上昇した(③)。その後、ドル/円の上昇につれて豪ドル/円は一時86.37円の高値をつけた(④)。しかしその後、格付け会社フィッチが「ギリシャ国債の償還期限延長の場合はデフォルトとみなす」と警告し、ギリシャの債務不安が高まると、リスク回避の動きから豪ドル/円は下落した。
<b>6/16</b> Thursday	オランダ中銀総裁が「欧州救済基金の資金規模を倍増させる必要性」と発言し、欧州の債務懸念が再燃。欧州株や原油先物相場が下げると、豪ドル/円は84.60円まで下落(⑤)。
<b>6/17</b> Friday	欧州の根強い債務不安を背景に欧州株や原油先物相場が下落すると、豪ドル/円は一時84.55円まで下落(⑥)。しかし、メルケル独首相は独仏首脳会議後の会見で、ギリシャ救済で欧州中銀(ECB)に譲歩する姿勢を示した。これを手掛かりにユーロ買いが強まり欧州株が反発すると、その後豪ドル/円は一時85.37円まで上昇した。

### 上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退  
→リスクを取ることに積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

### 下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## AUD/JPY

## 今週の見通し

今週の豪ドル/円相場は、ギリシャを始めとする欧州の債務不安に注目が集まりそうだ。先週17日、独首相の発言をきっかけにユーロ買いが強まり、欧州株が上昇した事を背景に、豪ドル/円は反発した。しかし、ギリシャに対する追加支援の規模や時期の決定は7月に先送りされた事から、今週もギリシャを始め欧州の債務不安が再燃する場面では、リスク回避の動きから豪ドル/円は弱含む事が予想される。

一方、米国では22日に、連邦公開市場委員会(FOMC)と、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の記者会見が予定されている。今月末にて量的緩和第2弾(QE2)が終了する事から、市場の関心は今後の金融政策と議長の発言に集まりそうだ。豪ドル/円相場から見た場合、ドル/円と米株の反応がポイントと見られ、共に上昇する場合、豪ドル/円には上昇圧力がかけやすいと見る。一方で共に下落する場合、豪ドル/円は弱含むことも予想される。(川畑)

(予想レンジ: 82.10~86.20 円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●AUD/JPY 6/17週足引値:84.96円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

豪ドル/円は2週連続で26週線(6/17時点では84.67円)にて、辛うじて下支えされた。また週足は上ヒゲの長い陽線となっており、今週は上ヒゲの攻略と共に、86円台半ばを突破できるかに注目であり、これらで上値が押さえられるようだと、84.30円(5/5安値)下抜けを試す動きが強まることも予想される。

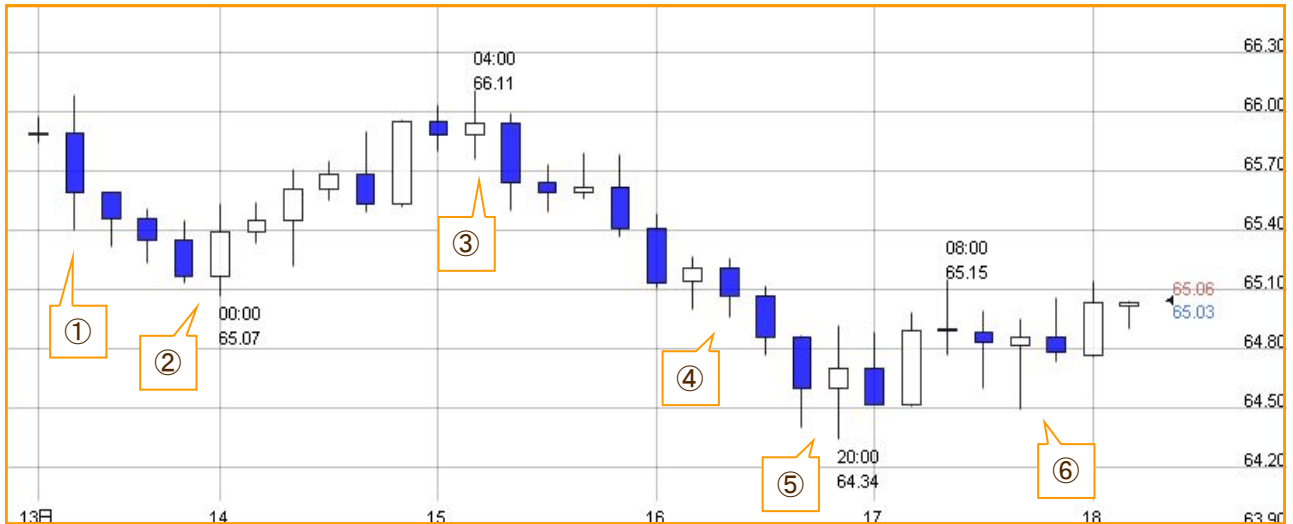
ボリンジャーバンドは6/17現在、上限:87.21円~下限:84.44円と、バンド幅はわずかに下方に拡大しており、下値模索の動きが試されやすいと見る。今後ローソク足がバンド下限を押し下げる動きとなる場合、下落トレンドが発生する可能性もある。

移動平均は20日線(6/17時点では85.82円)が下向きで推移しており、上値は重そうだ。ただ200日線(同、83.35円)は緩やかな上向きにつき、一度は下値を支える可能性もある。

上値ポイントは①85.52円(6/9高値)、②85.82円(20日線)、③86.59円(6/1の陰線実体部1.16円の2/3戻し)であり、下値ポイントは①84.30円(5/5安値)、②83.35円(200日線)、③82.12円((3/18安値74.25円-4/11高値90.00円の値幅15.75円の2/3下押し)である。(川畑)

## NZD/JPY

## NZドル/円 6/13~17の主な推移



6/13  
Monday

NZのクライストチャーチでM5.5の地震が発生し、建物の崩壊や負傷者の発生が伝えられた。これによりNZドル売りが強まると、NZドル/円は40銭近く急落して65.66円まで下落(①)。欧州勢もNZドル売りで参入すると、NZドル/円はじり安の展開が続いた。また、格付け会社S&Pによるギリシャの格下げを受けてNYダウ平均が前日比マイナス圏に転落し、原油先物価格も2ドル近く急落すると、リスク回避の動きが強まり、NZドル/円は65.07円まで下げた(②)。

6/15  
Wednesday

NZ第1四半期小売売上高は市場予想通り、前期比+0.9%となった。市場では2月にNZで発生した地震の影響を考慮すると、まずまずの数字との見方から、発表直後はNZドル買いが強まり、NZドル/円は66.11円まで上昇した(③)。

6/16  
Thursday

NZのイングリッシュ財務相は「政策金利を低い水準に長く維持すればするほど良い」「NZドル高は経済にとって向かい風」などと発言。これを受けNZドル/円はじり安で推移した(④)。加えてオランダ中銀のウェリンク総裁が「欧州救済基金の資金規模を倍増させる必要性がある」と発言し、欧州の債務懸念が再燃。欧州株や原油先物相場が下落すると、NZドル/円は64.34円の安値をつけた(⑤)。

6/17  
Friday

欧州の根強い債務不安を背景に欧州株や原油先物相場が下落すると、NZドル/円は一時64.49円まで下落した(⑥)。しかし、メルケル独首相は独仏首脳会議後の会見で、ギリシャ救済で欧州中銀(ECB)に譲歩する姿勢を示した。これを手掛かりにユーロ買いが強まり欧州株が反発すると、その後NZドル/円は65円台へと反発した。

## 上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることに積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。



## NZD/JPY

## 今週の見通し

今週のNZドル/円相場は、ギリシャを始めとする欧州の債務不安に注目が集まりそうだ。先週17日、独首相の発言をきっかけにユーロ買いが強まり、欧州株が上昇した事を背景に、NZドル/円は反発した。しかし、ギリシャに対する追加支援の規模や時期の決定は7月に先送りされた事から、今週もギリシャを始め欧州の債務不安が再燃する場面では、リスク回避の動きからNZドル/円は弱含む事が予想される。

一方、米国では22日に、連邦公開市場委員会(FOMC)と、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の記者会見が予定されている。今月末にて量的緩和第2弾(QE2)が終了する事から、市場の関心は今後の金融政策と議長の発言に集まりそうだ。NZドル/円相場から見た場合、ドル/円と米株の反応がポイントと見られ、共に上昇する場合、NZドル/円には上昇圧力がかかりやすいと見る。一方で共に下落する場合、NZドル/円は弱含むことも予想される。

そのほか、NZでは22日に第1四半期経常収支の発表が予定されている。市場ではNZで2月に発生した震災被害による海外からの保険金支払いや好調な輸出を背景に、37年ぶり黒字が予想されている。仮に黒字幅が予想を上回る場合、NZドル/円が上昇する可能性もある。(川畑)

(予想レンジ:63.10~66.50円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線 60日線 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ -2シグマ



●NZD/JPY 6/17週足引値65.03円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

NZドル/円は5/31高値67.41円以降、66円台半ばが上値抵抗となっている。加えてローソク足が20日線を割り込んだことで下値を試す動きとなり、先週はバンド下限で辛うじて下げ止まった。仮にローソク足がバンド下限を押し下げられる場合、バンド幅が狭い事も相まって、相場は200日線を試す可能性も出てくる。

ボリンジャーバンドは6/17現在、上限:66.79円~下限:64.45円。バンド幅は狭いながらも一定となっており、ローソク足の実体部がバンド下限を押し下げられない場合、下値は限定的となることも考えられる。その場合は20日線に向けた反発も予想される。

ローソク足は20日線(6/17時点では65.62円)や60日線(同、65.04円)を下抜けており、流れは下に傾きつつある。ただ、200日線(同、63.03円)は上向きにつき、下押しの際は一旦サポートとなることも予想される。

上値ポイントは①65.62円(6/9高値)、②66.50円(6/9高値)~66.79円(バンド上限)、③67.41円(5/31高値)であり、下値ポイントは引値レベルで①64.45円(バンド下限)、②63.15円(200日線)、③62.54円前後(5/5安値)である。(川畑)

## ZAR/JPY

## ランド/円 6/13~17の主な推移



<b>6/14</b> Tuesday	マーカス南アフリカ準備銀行(SARB)総裁は、ランド高を抑制する目的で今後もドル買い・ランド売りを続ける意向を示した。しかし市場の反応は薄く、米5月の小売売上高や生産者物価指数が予想を上回る結果を受けて米景気の停滞観測が和らぎ、NYダウ平均や原油相場が上昇した事を手掛かりに、ランド/円は堅調な推移が続き、その後11.93円まで上昇した(①)。
<b>6/15</b> Wednesday	20時に発表された南アフリカ4月実質小売売上高は前年比+9.8%と予想(+5.0%)を大きく上回ったものの、ランド相場の反応は限定的となった(②)。しかしその後、格付け会社フィッチが「ギリシャ国債の償還期限延長の場合はデフォルトとみなす」と警告し、ギリシャの債務不安が高まると、リスク回避の動きからランド/円は小幅安で推移した。
<b>6/16</b> Thursday	オランダ中銀のウェリンク総裁が「欧州救済基金の資金規模を倍増させる必要がある」と発言し、欧州の債務懸念が再燃。欧州株や原油先物相場が下落すると、ランド/円は一時11.69円の安値をつけた(③)。
<b>6/17</b> Friday	欧州の根強い債務不安を背景に欧州株や原油先物相場が下落すると、ランド/円は一時11.69円まで下落した(④)。しかし、メルケル独首相は独仏首脳会議後の会見で、ギリシャ救済で欧州中銀(ECB)に譲歩する姿勢を示した。これを手掛かりにユーロ買いが強まり欧州株が反発すると、その後ランド/円は上昇した。

## 上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることに積極性が増す  
→主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・利下げ懸念の後退
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## 今週の見通し

今週のランド/円相場は、ギリシャを始めとする欧州の債務不安に注目が集まりそうだ。先週17日、独首相の発言をきっかけにユーロ買いが強まり、欧州株が上昇した事を背景に、ランド/円は反発した。しかし、ギリシャに対する追加支援の規模や時期の決定は7月に先送りされた事から、今週もギリシャを始め欧州の債務不安が再燃する場面では、リスク回避の動きからランド/円は弱含む事が予想される。

一方、米国では22日に、連邦公開市場委員会(FOMC)と、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の記者会見が予定されている。今月末にて量的緩和第2弾(QE2)が終了する事から、市場の関心は今後の金融政策と議長の発言に集まりそうだ。ランド/円相場から見た場合、ドル/円と米株の反応がポイントと見られ、共に上昇する場合、ランド/円には上昇圧力がかかりやすいと見る。一方で共に下落する場合、ランド/円は弱含むことも予想される。

そのほか、南アフリカでは22日に5月消費者物価指数(CPI)の発表が予定されている。CPIは昨年9月を底に上昇が続いており、市場予想(本稿執筆時点では前年比+4.3%)を上回る場合、南アの年内利上げ期待が浮上するかに注目したい。(川畑)

(予想レンジ:11.50~12.00円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●ZAR/JPY 6/17週足引値:11.82円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

ランド/円は6月に入り、20日線とバンド上限との往來が続いている。先週は一時的に20日線を下抜けており、相場は6月に入って続いた20日線とバンド上限との往來から、バンド下限と20日線との往來へとレンジが切り下がる可能性が出てきた。今週は20日線を巡る攻防に注目したい。

ボリンジャーバンドは6/17現在、上限12.01円～下限:11.55円と、バンド幅はほぼ横ばい。現在はレンジ相場が続いていることを示唆している。

移動平均は20日線(6/17時点では11.79円)、60日線(同、11.99円)、200日線(同、11.90円)いずれも横ばいで推移。ただ、ローソク足はいずれの移動平均線の下であり、かつ、20日線がこれらの移動平均線の中で一番下にあることから、目先は上値が重い展開が予想される。

上値ポイントは①引値レベルで11.79円(20日線)、②12.01円(バンド上限)～12.03円(6/2高値)、③12.10円(5/6高値)であり、下値ポイントは①11.69円(6/16安値)、②11.58円(バンド下限)～11.59円(5/25安値)、③11.43円(5/13安値)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 経済指標カレンダー (6/20~24)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
6/20	08:50		(日) 5月通関ベース貿易収支	-4648億円	-7102億円
(月)	14:00		(日) 4月景気動向指数・改訂値 [一致CI指数]	103.8	—
			(日) 4月景気動向指数・改訂値 [先行CI指数]	96.4	—
	15:00		(独) 5月生産者物価指数 [前年比]	+6.4%	+6.2%
	17:00		(ユーロ圏) 4月経常収支	-47億EUR	—
6/21	10:30	◎	(豪) RBA議事録	—	—
(火)	17:00		(南ア) 第1四半期経常収支	-170億ZAR	—
	18:00	◎	(独) 6月ZEW景況感調査	3.1	-5.0
	18:00		(ユーロ圏) 6月ZEW景況感調査	13.6	—
	21:30	○	(加) 4月小売売上高 [前月比]	±0.0%	+0.7%
	21:30		(加) 5月景気先行指数 [前月比]	+0.8%	—
	23:00	○	(米) 5月中古住宅販売件数	505万件	485万件
			(米) 5月中古住宅販売件数 [前月比]	-0.8%	-4.0%
6/22	07:45		(NZ) 第1四半期経常収支	-35.20億NZD	—
(水)	17:00		(南ア) 5月消費者物価指数 [前年比]	+4.2%	+4.4%
	17:30	◎	(英) BOE議事録	—	—
	23:00		(ユーロ圏) 6月消費者信頼感・速報	-9.8	-10.0
	23:00		(米) 4月住宅価格指数 [前月比]	-0.3%	-0.2%
	25:30	◎	(米) FOMC政策金利発表	0.00-0.25%	0.00-0.25%
6/23	15:00		(スイス) 5月貿易収支	+14.4億CHF	—
(木)	21:30	◎	(米) 6/18までの週の新規失業保険申請件数	41.4万件	—
	23:00	○	(米) 5月新築住宅販売件数	32.3万件	31.0万件
			(米) 5月新築住宅販売件数 [前月比]	+7.3%	-4.0%
6/24	17:00	◎	(独) 6月IFO景況指数	114.2	113.7
(金)	21:30	○	(米) 5月耐久財受注 [前月比]	-3.6%	+1.6%
		○	(米) 5月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	-1.6%	+1.0%
	21:30	○	(米) 第1四半期GDP・確報値 [前期比年率]	+1.8%	+2.0%
	21:30	○	(米) 第1四半期個人消費・確報値 [前期比]	+2.2%	+2.2%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。